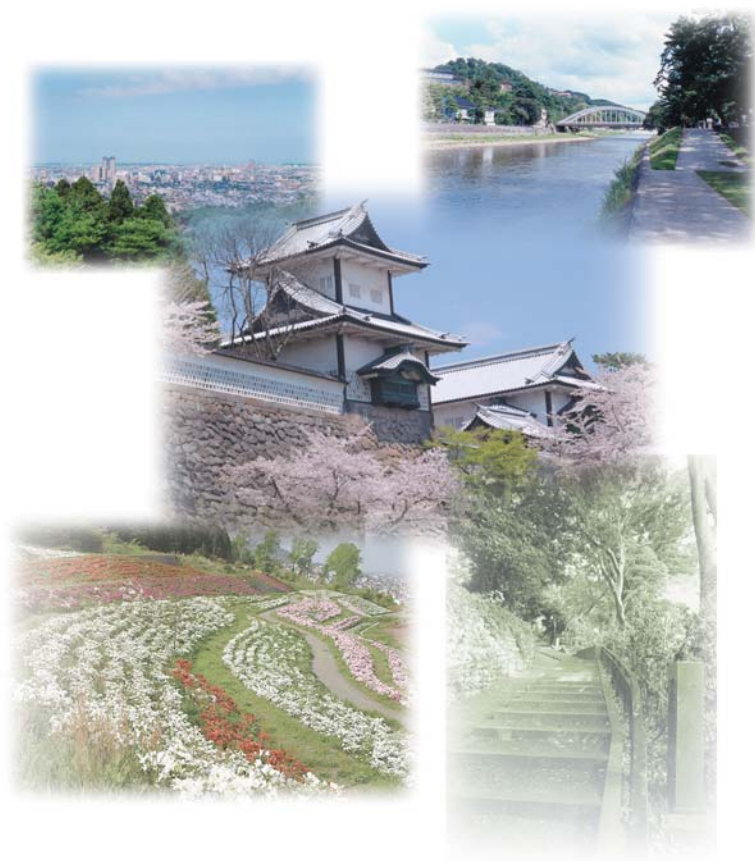


かなざわ自然環境見聞録

探訪ガイドブック



はじめに

金沢のまちは、古くから大きな災害や戦禍にみまわれず、先人たちの努力によって大切な自然環境が今に受け継がれてきました。中心部の金沢城公園や本多の森は、昔からの緑が残り、数多くの動植物を育てています。さらに歴史ある社叢林や庭木の緑が、まちなみと融合し、広がりをもせ「森の都・金沢」を形成しています。

そして犀川・浅野川をはじめ、多くの河川が起伏に富んだ地形をつくり、辰巳用水や旭、長坂用水などの用水網が、独特の潤いある水辺環境を創出しています。

今回の探訪コースは「まちなか」を中心に『身近な自然・歴史・文化とのふれあい』をテーマにしたコースとなっています。

季節や時間にあわせて、金沢の自然環境を再発見してください。

かなざわ自然環境見聞録 探訪コース順路

ページ

丸の内コース

4

- ▶ 兼六園下バス停 → 白鳥路 → 大手堀 → 黒門前緑地【旧高峰家・旧検事正官舎】 → 尾崎神社 → (お堀通り) → 尾山神社(東神門から境内へ) → いしかわ四高記念公園【石川四高記念文化交流館】 → (アメリカカフウ街路樹があるいしかわ四高記念公園横舗道) → 金沢城公園【玉泉院丸口～二の丸広場沿い～極楽橋～三十間長屋～本丸園地～辰巳櫓跡～丑寅櫓跡～石川門】

本多の森コース

7

- ▶ 石川護国神社 → (百万石通り横断) → 大乘寺坂 → (遊学館高校角右折～鈴木大拙生誕地記念碑左折～本多通り～県立図書館角右折) → 中村記念美術館【本多公園】 → 美術の小径 → 本多の森(県立美術館裏～県立美術館広坂別館) → 石浦神社 → (百万石通り横断～広坂) → 兼六園梅林【兼六園内】 → 金城豊沢 → 金沢神社 → 成巽閣・県立伝統産業工芸館・県立能楽堂

八坂・馬坂コース

10

- ▶ 金沢医療センター → 八坂 → (松山寺・鶴林寺・雲竜寺) → 東兼六町界隈 → 木曾坂 → (扇町界隈～「馬坂案内板」角右折) → 馬坂 → 宝円寺 → (東兼六町への階段～源太郎川との交差点右折～小立野通り) → 金沢くらしの博物館【紫錦台中学校】 → 辰巳用水 → 飛梅町・下石引町界隈

鶴間坂・天神坂コース

13

- ▶ 小立野3丁目バス停 → 上野八幡神社 → (小立野小学校～金沢商業高校横) → 鶴間坂 → 青雲寺 → 旭用水 → (用水沿い～小立野トンネル下) → 椿原天満宮 → 天神坂 → (金沢美術工芸大学横～経王寺) → 如来寺 → 天徳院

卯辰山・浅野川コース

16

- ▶ 浅野川大橋右詰 → 東山河岸緑地 → 旧観音町界隈・寿経寺 → (旧御歩町界隈～浅野川) → 梅ノ橋・鏡花のみち【滝の白糸碑・並木町のマツ並木】 → 天神橋 → 帰厚坂 → (途中の階段～卯辰山公園線横断) → 泉鏡花句碑 → 花菖蒲園 → 卯辰三社【日暮ヶ丘】 → 山野草園 → (公園線左折～東山蓮如堂) → 宝泉寺 → 子来町緑地 → (緑地奥階段～矢の根川沿い) → 宇多須神社 → ひがし茶屋街

卯辰山・心の道コース

19

▶ 望湖台バス停 → 望湖台【徳田秋聲碑】 → (卯辰山公園線横断) → 横空台 → 月見台 → (卯辰窯～地下道) → 金沢卯辰山工芸工房・うぐいす台 → (うぐいす台終点左折) → 龍国寺 → (真成寺横～本光寺境内～全性寺～妙国寺境内～妙圓寺境内) → 心蓮社 → (城北通り～光覚寺～善導寺境内・墓地霊園沿い～卯辰山公園線～春日山焼窯跡) → 小坂神社

犀川・寺町台コース

22

▶ 平和町バス停 → 平和町公園 → (県営住宅34号角左折～県営住宅66号角右折) → 平和神社 → (平和町児童館裏) → 御参詣坂 → 犀川緑地公園 → 法島児童公園 → いしかわ子ども交流センター → (交流センター駐車場角左折～三叉路左折) → 法島不動尊 → 八幡神社

犀川・桜橋コース

24

▶ 犀川大橋南詰 → 蛤坂 → (山錦楼～成学寺～寺町通り横断) → 本長寺 → (妙立寺角右折～願念寺) → 金剛寺 → 六斗の広見【国泰寺・泉野菅原神社】 → (金剛寺裏の小路～亀雲寺角右折) → 興徳寺 → (興徳寺前～寺町通り～泉が丘通り横断) → 寺町鐘声園 → (寺町通り横断) → 長久寺 → (本因寺角左折) → 新桜坂緑地 → W坂・桜坂 → (桜橋南詰横断) → 桜橋 → 犀川緑地【室生犀星文学碑】 → 犀星のみち

野田山・長坂コース

27

▶ 野田バス停 → 野田町界限 → 長坂用水 → (用水沿い～野田排水場～大乘寺門柱前) → 大乘寺 → 大乘寺丘陵公園 → (車道～三叉路左折) → 野田山頂上部 → (平成墓地参道左折) → 野田山墓地 → 前田家墓所 → (参道下る～墓地管理事務所前右折) → 覚尊寺 → (通り左折) → 桃雲寺

伏見川・滴願寺山コース

30

▶ 富樫小学校前交差点 → (富樫公民館～三叉路右折) → 山科神社 → (嶽の橋左詰左折～山科町界限～橋渡り三叉路右折～葵ヶ丘住宅沿い) → 仙人橋 → 山科の貝化石とおう穴群 ～ (伏見川沿い～橋渡り急勾配) → 芋掘り藤五郎神社 → (山科町界限～窪1丁目界限) → 九万坊大権現 → 斎地神社 → (窪2丁目界限) → 窪大橋

丸の内コース

清楚な石垣が刻む「悠久の歴史と緑樹の陰翳」いん えい

市街中央部、金沢城址を中心としたこの一帯は、戦国時代の歴史や往時の緑陰を彷彿とさせます。城に隣接する尾崎神社、尾山神社などの緑樹にも心癒され、ひととき、まちなかの喧噪を忘れさせてくれます。

白鳥路 → 大手堀 → 黒門前緑地 → 尾崎神社 → 尾山神社

いしかわ四高記念公園 → 金沢城公園(玉泉院丸口～本丸園地～櫓跡～石川門)



●白鳥路とホテル

外濠公園白鳥路は、タブノキなどの大木とヤブツバキなどの小木が陽光を遮り、葉陰が織りなす緑黄の色彩には心とみまします。金沢ゆかりの三文豪の銅像をはじめ、さまざまな彫刻が佇み、緑の中の美術館を歩いているようです。散策路内のせせらぎでは、初夏になるとホテルが飛び交う姿が



(白鳥路)

●大手堀

金沢城には、いもり堀、白鳥堀、百間堀などの外濠がありましたが、水濠として現存しているのはいもり堀と大手堀の一部です。大手堀には、白鳥路からのせせらぎが流れ込み、対岸の苔むした石垣の威容を水面に色濃く浮かび立たせていて、栄華を極めた加賀百万石の歴史が偲ばれます。春には、歩道沿いのソメイヨシノの老並木が一斉に花ほころび、桜吹雪が棧橋を覆い尽くします。

●黒門前緑地

大手堀の西隣にあるのが黒門前緑地。旧検事正官舎敷地にアドレナリン、タカジアスターゼで有名な世界的化学者、高峰讓吉博士ゆかりの家屋を移築し、公園として整備したものです。土塀を廻らす屋敷構えとクロマツ、モチノキ、タムケヤマなど、植栽が施された庭園風緑地との色合いの調和が、周辺風景に落ち着きをあたえます。

●尾崎神社のイチョウ

北陸の東照宮ともよばれる尾崎神社。朱漆塗の建物、^{ろくしょう}緑青の屋根、鮮やかな色彩に目を奪われます。秋の紅葉時期にはさらに色調に深みが増し、アカマツやケヤキ、樹高18mの大イチョウが境内を細やかな彩りで染め上げます。

●尾山神社の樹林

藩祖・前田利家をまつる尾山神社。五彩のギヤマンが印象に残る西洋風の神門や、金沢城二ノ丸から移築された東神門が境内に人々を誘います。拝殿の前庭にそびえるイスノキは、この地方では珍しく樹齡200年にもなります。参道右の琵琶などの古楽器をかたどった島や、橋が配された池泉回遊式庭園には「動」の趣があり、クロマツ、アカマツ、スギ、スダジイなど高木の深い緑を育む社叢林には「静」なる趣を感じます。

●いしかわ四高記念公園

尾山神社東神門からいしかわ四高記念公園へ。金沢市街地のほぼ真ん中にあるいしかわ四高記念公園は、まちなかの緑のオアシスとして憩いの広場、さらには四季を通じてさまざまなイベントや行事が展開される賑わい空間創出の場として利用されています。一方、広坂通りに面した赤煉瓦の旧四高校舎（石川四高記念文化交流館）周辺は、ふるさとの森やアカマツ、イチヨウの大木が生い茂り、ほんのりとした明るさで感傷的な気分させられます。

公園に隣接している道路の両脇には、数十本のアメリカフウが植えられています。樹高20mの木々たちは、春は若葉が萌え、夏には深緑が爽快さを演出します。特に秋は、朱や黄色、橙、深紅と鮮やかに色彩を競い合い、その様は、美景のひとつに挙げられます。

●金沢城公園

いしかわ四高記念公園沿いのアメリカフウの並木道を抜け、玉泉院丸口からいよいよ金沢城公園へと歩を進めます。金沢城公園は、貴重な緑を保全しながら史実を尊重しながら整備が進められています。公園内では、四季を通して多様な動植物が観察でき



ます。特に本丸園地の森では、スダジイやウラジロガシ、モミなどの巨樹が大きく枝を広げ、木漏れ日あふれる散策路に芳しい緑の香りを漂わせています。エノキ、カラスザンショウ、チシマザサなどの木々やウバユリなどの野草も多く生育しています。また、園地内の池では、モリアオガエルの白い卵塊を観察することもできます。タヌキやアカネズミなどの野生動物が棲息していることも確認されています。公園内にはいくつかの櫓跡があり、素晴らしい景観を楽しむことができます。辰巳櫓跡では、市街地から野田山、倉ヶ岳、それに続く南の山並みが、丑寅櫓跡の展望台からは眼下に兼六園、遠くは戸室山、医王山などの山々が見渡せます。

国指定重要文化財の石川門や三十間長屋。菱櫓や五十間長屋など、百万石の息吹を現代に甦らせた復元建造物の優美な姿。また、平成27年3月、江戸末期の絵図をもとに、玉泉院丸庭園が再現されました。金沢城公園は、その風格ある歴史・文化、そして豊かな自然がひとつになった緑の中核といえるでしょう。



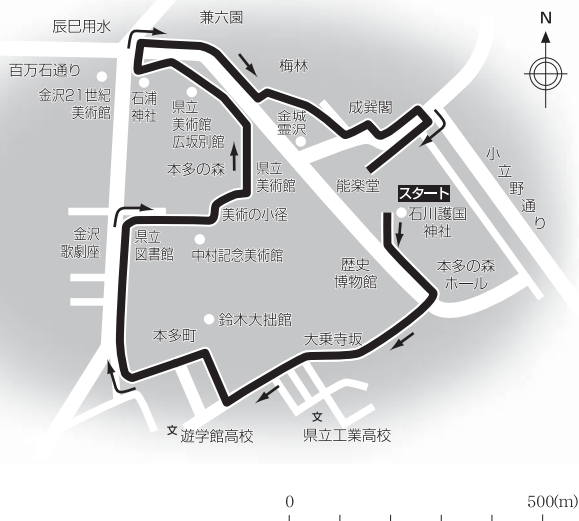
(モリアオガエルの白い卵塊)

本多の森コース

続く緑の回廊「豊かな自然環境と都市景観の創出」

犀川と浅野川によって形成された小立野台地。兼六園とそれに続く本多の森は、まちなかにありながら豊富な緑にふれることができる恵まれた環境です。スタジイやタブノキの巨木に自然の荘厳さを感じます。

石川護国神社 → 大乘寺坂 → 中村記念美術館 →
美術の小径 → 本多の森 → 県立美術館広坂別館 →
石浦神社 → 兼六園梅林 → 金城霊沢 → 能楽堂ほか



●石川護国神社の樹林

護国神社の樹林では、まずは拝殿周囲の樹高25mに達するヒノキ、スギ、モミの大木に目を奪われます。参道右の重厚なゴヨウマツやサカキ、ヒサカキなどの中低木も多く、また、名札がつけられた種々の樹木もみられます。

●大乗寺坂

大乗寺坂は、N T T金沢支社横から本多町へ下る坂道です。藩政期の慶長から元禄年間に曹洞宗こざうの古刹、大乗寺が坂下にあったのでこの名でよばれています。同寺はのちに長坂町に移りました。坂の途中からまちなみを眺めると、緑の丘陵地野田山や、遠くは犀川奥にそびえる奈良岳や大門山などの山々が姿をあらわします。



(大乗寺坂)

●鈴木大拙館

大乗寺坂を下り、右へと進んでいくと鈴木大拙館があります。小立野台地から続く斜面緑地を背景に、石垣や水景などによって金沢を象徴する景観を創作り、その中で鈴木大拙の世界を展開していくことをコンセプトとしています。館内には書や写真、著作などの資料が展示され、来館者が自由かつ自然な心で大拙に出会うことにより得た感動や心の変化を自らの思索に繋げていく場となっています。また、近くには「鈴木大拙生誕地記念碑」も建っています。禅と仏教の研究で国内のみならず世界的に名高い大拙の偉業が偲ばれます。

●中村記念美術館から美術の小径へ

本多通り、県立図書館を右に折れます。本多の森が正面にみえ、本多公園の趣あるしつらえに調和した中村記念美術館に辿りつきます。

茶道具の名品を中心に加賀蒔絵、古九谷など数多くの逸品が展示されています。木造で黒瓦が美しい旧館も、さらに薫り高い伝統文化の気品を漂わせています。

緑の木陰で覆われた急な石段を登ります。「美術の小径」とよばれ、県立美術館へと続く散策路です。中程から、清涼感ある水音が聞こえてきます。辰巳用水分流のせせらぎですが、急斜面を勢いよく流れ落ちてくるので、まるで滝のような力強さを感じます。ここでは、この用水の落差を利用したマイクロ水力発電設備を設置しています。水力を電気にかえる自然エネルギーの有効活用として、発電した電力は公園内のLED照明に使っています。平成29年3月末には、「歴史の小径」も新たに整備されました。

また、その他に中村記念美術館から鈴木大拙館へと続く「緑の小径」があります。秋には鮮やかに色づいた紅葉がきれいな紅葉スポットとなっています。

●本多の森

まちなかの緑のオアシスと親しまれている本多の森公園。公園内には、緑濃い森だけでなく文化財や文化施設が数多く点在し、一帯は兼六園周辺文化ゾーンとよばれています。その本多の森は、スダジヤやタブノキなど葉の表面に光沢がある照葉樹林を中心とした緑で、特に県立美術館広坂別館周辺のスダジヤの巨木群やモミの木などは、貴重な自然の森を代表するひとつです。



こみち
(美術の小径)

●広坂かいわい

県立美術館広坂別館から階段を下り、緑あふれる小道を進むと石浦神社。境内の樹林は、まちなかに残された潤いのある緑で、マキ、モチノキなど名札がつけられた樹木もみられます。広坂交差点を兼六園方面に渡り、真弓坂を左にみながら広坂を進みます。坂中程を左に折れ、正面にみえてくるのが兼六園梅林です。

金沢に春の訪れを告げる兼六園のウメは、20種200本（白梅約140本、紅梅約60本）。主な品種は、実梅では白加賀（しらかが）、花梅では摩耶紅（まやこう）が多く、3月に花の見頃を迎え6月頃に実を収穫して、福祉施設などに配られます。

●「金沢」地名の誕生

金城霊沢は昔、芋掘藤五郎がこの泉で芋を洗ったところ、砂金が出てきたところから「金洗い沢」とよばれ、そこから「金沢」の地名が生まれたといわれています。小立野段丘からのわき水と考えられ、井底からわき出していて、真夏でも涸れることはありません。茶会の水として、寒の季節の冷たい水は、文化財など保存用の正麩糊しょうふのりをつくるために使われています。

隣は金沢神社。アカマツ、スギ、モミなどの高木、サカキ、モミジなどの中木がみられ、境内周囲にはウバメガシの生け垣がめぐらされています。神社横から通りへ出ると、能楽堂、成翼閣、伝統産業工芸館などの文化財・文化施設が建ち並んでいます。

八坂・馬坂コース

緑が語る台地の歴史「水の流れと人が行き交う坂のまち」

台地が大きく浸食され、起伏に富んだ地形が続く。そんな自然環境が古くから育んできた坂、用水、わき水などが残る界隈には今も先人たちが坂を歩き、水で潤い、憩いの時を過ごした息づかいが聞こえてくるようです。

八坂 → 木曾坂 → 馬坂 → 宝円寺 → 金沢くらしの博物館 →
辰巳用水 → 飛梅町・下石引町



●八坂

「歴史のまちしるべ」にはこう記されています。「昔、付近に木こりが通う八つの坂があったのでこの名がついた」。金沢医療センターの横から東兼六町へ下りるこの坂は、かなりの急坂です。眼下には、卯辰山を背景として、家々の葺が光輝く情景は、懐かしい金沢のまちなみを色濃く残しています。

●台地斜面の寺院群

八坂の下、右に進むと苔むした石積み塀が続き、小立野台地の深い樹影を借景とした松山寺、鶴林寺、雲竜寺が並び建ちます。山門まで長い石段が築かれている様は、山寺の情景を彷彿とさせます。特に松山寺境内に凛々しくそびえ立つ2本のモミの大木は、山門を大きくしのいでいます。

●木曽坂

寺院群近くを流れる源太郎川に沿って長い坂が続きます。途中、左に折れ、木曽坂を上ります。木曽の山中を思わせる幽すいなところであることから、この名がつけられた坂の界限は、小立野台地から流れる小河川により浸食され、市内では珍しい谷あいの地形で、右の崖地にはスギの大木や深々とした竹林などがみられ、坂を挟んで左の源太郎川の豊かな流れと澄んだ水音が、溪谷の風情に彩りを添えています。

坂上の高台に着くと、次は斜面を一気に下る石段があらわれます。時が過去に遡ったかのような古い面影を残した坂道で、下りきったところが扇町で、天神町へと続くまちなみに沿って馬坂の上り口へと進みます。

●馬坂

馬坂は、かつて農民が馬を引いて上った道。坂を上りながらまちなみを俯瞰してみると、卯辰山をはじめ遠くは内灘方面まで遠望できます。途中、馬坂不動寺が鎮座し、竜頭の笥から細く、長くこぼれ出る清水は、崖地からしみ出るわき水です。

●宝円寺

前田家の菩提寺として知られる宝円寺。境内にはケヤキ、ボダイジュなどの大木があり、きれいに手入れがされています。山門を出て右にまわり、急な石段を下り再び坂を上ります。源太郎川があらわれたら右にみえる狭い階段を登り、小路を進むと小立野通りです。

●金沢くらしの博物館

博物館として使われている建物は、明治32年(1899)に旧金沢第二中学校として建てられました。屋根に三つの尖塔があることから三尖塔校舎の愛称で、今も親しまれています。博物館がある紫錦台中学校の敷地内には、枝ぶりが華

麗なアカマツのほか、白梅、トベラ、ツガなど種々の樹木が点在し、生徒たちによって名札がつけられていて、木々を観察するうえでとても参考になります。

●辰巳用水

用水のまち金沢。金沢くらしの博物館前を辰巳用水が流れています。この用水は、三代藩主前田利常が、寛永9年(1632)に板屋兵四郎に設計させたものです。犀川上流の上辰巳町で取水し、導水トンネルを通り、5.2kmの開水路で兼六園に入ります。霞ヶ池に一旦貯水し、ここから地下導水石管を使って金沢城の二ノ丸へ揚水しました。延長約12kmにもなります。

辰巳用水は、低地から高地に水を引き上げる逆サイフォン工法を用いていることや、地下導水石管の技術レベルの高さは、日本の土木技術史上においても重要なものといえるでしょう。

●飛梅町・下石引町かいわい

この界限は、昭和39年の住居表示の実施により「石引3丁目」に町名変更となりましたが、平成12年4月「飛梅町」・「下石引町」の町名が復活しました。

飛梅町の由来は、この地に加賀八家の一つ前田対馬守長種にはじまる藩の老臣一万八千石前田氏の下屋敷があったところで、同家の家紋の「角の内梅輪」にちなんで名付けられました。「飛梅」といえば、福岡県太宰府天満宮の祭神・菅原道真ゆかりのご神木の飛梅が知られていますが、平成18年には、復活した町名が縁で、太宰府天満宮から太宰府の梅苗が金沢市に贈られ、金沢くらしの博物館敷地内に植樹されました。また、下石引町は、金沢城の石垣を築くため、戸室山から切り出した戸室石を引いて運んだみちすじがあったことから、この名がつけました。

県有形文化財「三尖塔校舎」や市指定保存建造物「旧ウィン館」などが建ち並び、学校も多く、児童・生徒たちがバスを待つ光景をよく目にします。飛梅町・下石引町は、まちに新たな歴史を刻んだのです。



(八坂)

鶴間坂・天神坂コース

しゃ そう りん

小立野台地を潤す「貴重な緑と豊かな社叢林」

河岸段丘、小立野台地。東斜面の崖地には、今も自然の緑が残っており、崖地林には、さまざまな生き物が棲息しています。豊かな樹林を持つ社寺も多く、崖地のたくましい植生との対比も興味深いものがあります。

上野八幡神社 → 鶴間坂 → 青雲寺 → 旭用水 → 椿原天満宮 →
天神坂 → 如来寺 → 天徳院



●上野八幡神社

小立野3丁目から旧金沢大学工学部方面へ進みます。上野八幡神社は、スギ、イチョウなどの大木、ヒサカキなどの低木からなる樹林です。境内には「山さむし心の底や水の月」の芭蕉句碑があります。

住宅地を進み、通りから小立野小学校のグラウンドを眺めてみましょう。グラウンド周囲には、サクラ、シラカシなど種々の樹木がみられます。

●鶴間坂

金沢商業高校の横を進み鶴間坂にむかいます。文人雅客が多く訪れた坂で、かつては地名、鶴舞谷が名の由来となっています。階段を備え、坂上のベンチではゆっくりと休憩もできます。崖地からさまざまな樹木が坂の上に枝を伸ばした緑のトンネルは、周辺環境に融合した落ち着きと静けさを創出しています。季節に応じシダレザクラなどが花をつけ、彩りを添えます。

●青雲寺と旭用水

鶴間坂下にある青雲寺では、手入れの行き届いたツバキ、モミジ、ヒバなどの高木と、ツツジなどの低木を配した見事な庭園をみることができます。

青雲寺前の道に沿って、豊かな清流とせせらぎ景観を演出しているのが旭用水です。小立野台地沿いで浅野川左岸から取水している唯一の用水で、昔ながらの石積み護岸や水面を彩る花緑が、素朴な情緒と風情を醸し出しています。



(旭用水)

●崖地林

小立野台地を左手にみながら旭町を進みます。小立野台地の表層は、おもに厚さ10m前後の礫層れきそうであり、これは約8～15万年前、犀川と浅野川がひとつの河川であったころの川底に堆積したものです。

この段丘には、モウソウチクを主体とした雑木林が茂っていますが、崖崩れの防止にも役立っているとのこと。木の実などを求めて庭木にやってくるヒヨドリの姿もみられます。

●椿原天満宮と天神坂

小立野トンネルの下を通過し、みえてくるのが椿原天満宮の樹林です。崖地斜面を開いた境内の樹林は、スギ、モミなどで構成されています。かつてこの地に椿原城があったとされ、参道右に「狼煙のろしの松」(クロマツ)があります。金沢城へ合図の狼煙をあげたことから、この名がついたといわれています。社殿までの階段から、お城がよくみえる段があります。

天神坂は、椿原天満宮旧社名、田井天神の横にあるのでこの名でよばれています。周辺に大きな道路ができたため、今は交通量も少なくなり、歩きやすい坂道となりました。

●小立野寺院群

金沢美術工芸大学を左にみながら経王寺、如来寺、天徳院へと進みます。徳川家と縁が深い如来寺。参道左には、クロマツ、アカマツ、イチヨウなどがみられます。

天徳院は、小立野寺院群の最先端に位置し三代藩主前田利常夫人、珠姫の菩提寺として有名です。天徳院という名は、姫の法名に由来しています。境内は、幹周4.5mのタブノキなどの大木とツゲ、ツツジ、サザンカなどの低木で構成される3,000本をはるかに超す大樹林で、一對の木造金剛力士像を安置する荘厳な山門との調和した雄姿は、心奪われるものがあります。



(天徳院)

卯辰山・浅野川コース

女川・浅野川「薫り高き文学慕情とまちなみ景観」

浅野川。文学の舞台として数多くの作品に描かれ、東山界隈の古いまちなみとともに魅力ある風情を漂わせています。四季の彩り鮮やかな卯辰山では、桜、紅葉、俯瞰景観など身近な里山の自然を満喫できます。

東山河岸緑地 → 旧観音町・寿経寺 → 梅ノ橋 → 鏡花のみち →
天神橋 → 帰厚坂・泉鏡花句碑 → 花菖蒲園 → 卯辰三社 →
山野草園 → 宝泉寺 → 子来町緑地 → 宇多須神社 →
ひがし茶屋街



●旧観音町のまちなみ

浅野川右岸の東山河岸緑地から「こまちなみ保存区域」の旧観音町へと足をむけます。城下町金沢では珍しいまっすぐな道で、町名は観音院が卯辰山から当地に移されたことに由来しています。遠くにみえる山麓の色濃い緑が、歴史的な家並みにアクセントをあたえています。

七稲地蔵で有名な寿経寺から、時間があれば観音坂を上り、今通ってきた旧観音町境界の俯瞰景観を楽しんでみましょう。

●梅ノ橋から鏡花のみちへ

旧御歩町境界を進み、梅ノ橋へ。橋のたもとには徳田秋聲記念館があります。上流を望めばアーチ型に組まれた天神橋や、四季折々の彩りに装った卯辰山が川面に映り、夢香る、まさに金沢らしい風光といえます。川沿いの鏡花のみちには、泉鏡花の代表作「義血侠血」のヒロイン・滝の白糸像と碑が建っています。

●並木町のマツ並木から天神橋へ

鏡花のみちを天神橋にむかって進むと、クロマツの並木が残されています。県指定天然記念物「並木町のマツ並木」で、並木町という旧町名を復活させた要因のひとつでしょう。天神橋付近の水辺では、フナやウグイが泳ぎ、カルガモなどの水鳥たちが川の流れに身をまかせています。卯辰山を背にして水と緑の協調したこの空間は、かけがえのない貴重な自然環境です。

●帰厚坂

いよいよ卯辰山に登ります。十四代藩主・前田慶寧が卯辰山を開拓したときに「藩主の厚き徳に帰する」との意味からその名がつけました。その坂の中程にある右の階段から通りに出ると、正面に石碑がみえてきます。泉鏡花の句碑で「はこひし夕山櫻峯の松 鏡花」と刻まれています。

●花菖蒲園

花菖蒲園は卯辰山の中腹に位置し、20万本ものハナショウブなどが植えられ、6月頃には色とりどりの花が咲き乱れます。アジサイも多数植えられています。また、アゲハチョウやミツバチなどの虫たちが蜜を求めて飛来します。

●卯辰三社の樹林

花菖蒲園内右から豊国神社をはじめとする卯辰三社の参道が続きます。イロハモミジ、ミズキなど種々の樹木が鬱蒼と生い茂り、深緑で遮光された石段を



(天神橋)

登る足音だけが、静寂な空間に響きわたります。途中の日暮ヶ丘からは、小立野台地から浅野川界限、遠くは兼六園・金沢城公園周辺など、広く市街地を見渡せます。ほか、日暮ヶ丘には梅林やサザンカ、三社境内では名札がつけられた種々の樹木もみられます。

●宝泉寺からの眺め

山野草園内を巡り、通りから左に折れ細い路地に入り東山蓮如堂、宝泉寺へと進みます。泉鏡花の小説にも登場する五本松で有名な宝泉寺。高台からの眺めは、まさに金沢を代表する景観のひとつといえます。浅野川の悠然とした水の流れと異彩を放つ橋の数々、陽光にきらめく黒屋根瓦の家並みと迷い道のような細街路。空の青が溶け込んだ緑の台地、雲と同化し霞立つ山々の雄姿が市街地の全景にさらに彩りをあたえます。境内には、サツキの陰に身を隠すように、ひっそりと芭蕉の句碑が建っています。

●子来町緑地から宇多須神社へ

宝泉寺前に緑地が広がります。子来坂に隣接する子来町緑地です。早春はウメに始まり、サクラ、アジサイ、秋の紅葉と、四季折々の変化を楽しむことのできる緑地です。緑地奥の竹で覆われた階段を下り、矢の根川沿いに歩を進めると、そこは宇多須神社。「心の道」のみちすじでもある神社境内には、五代藩主・綱紀が^{ほろそう}痲瘡を患った際、井戸水に酒を混ぜて体にかけて治したという言い伝えがある「酒湯の井戸」が残されています。

●ひがし茶屋街

最後は、重伝建地区のひがし茶屋街をそぞろ歩きしてみましょ。藩政時代の情緒を色濃く残すこの界限は、五木寛之の小説「朱鷺の墓」の舞台としても知られています。^{へんがら}紅殻の木格子がある古いまちなみの暖色と、山麓の自然そのままの緑が融合し、一枚の絵画をみているような印象をあたえます。

卯辰山・心の道コース

変化に富んだ眺望「山麓寺院群と自然景観との融合」

標高141.2mの卯辰山。望湖台に立つと市街地北部のまちなみが眼下に広がり、遠くの河北潟や日本海が、銀鱗のような輝きを放っています。山麓の寺院群では、社叢林を往来する鳥たちのさえずりが共鳴します。

望湖台 → 横空台 → 月見台 → 卯辰山工芸工房 →

うぐいす台 → 心の道(龍国寺、心蓮社など) → 小坂神社





●望湖台

標高135mの望湖台からは市街地のみならず河北潟、日本海まで雄大な景観が一望でき、まちの灯りを楽しむ夜景スポットとしても有名です。振り返れば戸室山、奥医王山などの山々が松林の間から姿をあらわします。望湖台の一角には、三文豪の一人・徳田秋聲の文学碑が建てられています。

●横空台から山頂へ

横空台では、それぞれ違った表情のマツが数多くみられます。人の手による造形とアカマツが持つ素材とが調和し、互いに競い合っています。季節によっては、雪を頂く白山や立山が遠望できます。

陸橋を渡り、月見台に進みます。眼下にみえるのが花木園。卯辰山スキー場跡地を造成した斜面には、12種のツツジやヤマザクラ、ハナミズキなどが季節に応じて花を咲かせます。月見台周辺は、まさに樹木の宝庫。森林浴には最適です。いくつかの石碑がみえてきます。そのひとつは「卯辰山公園創設記念碑」。この碑あたりが卯辰山山頂ですが、意外と知る人は少ないようです。

●うぐいす台周辺

卯辰山の中腹、登窯と数寄屋風造りの建物がみえてきます。金沢の優れた伝統工芸の継承発展と文化振興を図るための工芸の総合機関、金沢卯辰山工芸工房です。うぐいす台とよばれるこの一帯は、桜並木が連なり大小の枝ぶりも見事で、花見シーズンには、桜色に染まったトンネルの中を歩いていく気分です。遊歩道も快適で、エゴノキ、ケヤキなどの樹木を観察しながら緩やかな坂道を下っていきましょう。

汐見坂緑地の手前、一転して左の細い急な階段を下ります。

●心の道

心の道とは、天神橋近くの静明寺から山の上町の小坂神社までの約2.6Kmの卯辰山山麓寺院群をつなぐ散策路で、うぐいす台から下りてくると、心の道の中程のみちすじに出ます。

まずは龍国寺。卯辰山の緑と対照的な赤い鳥居が印象的で、加賀友禅の始祖・宮崎友禅斎の墓と句碑があることで有名です。境内は、1,000本を超える樹林で、ケヤキ、スギ、タブノキなどの緑が友禅堂茶室を優しく包んでいます。人形供養で知られる真成寺、横の階段を上がって狭い道を進み、本光寺裏手から境内に入り山門の階段を下ります。

重伝建地区に選定された卯辰山麓の狭く曲がりくねった小路を進むと、全性寺。朱塗りの仁王門に掛けられた大きな草鞋わらじに心惹きつけられます。このあたりから美しい土塀が続き、山麓の静かな寺院の佇まいにさらなる魅力を導き出しています。市指定文化財の妙国寺の山門をくぐり妙圓寺を経て、落ち着いた趣が漂う心蓮社へ。

心蓮社の樹林は、卯辰山の北西斜面のほぼ末端に位置し、この傾斜を利用して斜面に残っているタブノキ、ヤブツバキそして自然木で生育が北限といわれているツクバネガシなどの自然木を借景しやっけいとして取り入れています。名勝として市指定文化財となっている庭園は、築山池泉式の書院庭園つきやまで、遙か遠い江戸期の面影を今に語り継いでいます。

敷地と山腹の深緑を調和させ、静閑な佇まいをみせる光覚寺から善導寺の墓地霊園沿いの登りを上がりきれば、再び通りへ。

うぐいす台から続いていた桜並木の終点で、付近には、陶工・青木木米指導で開かれた春日山焼窯跡もあります。

●小坂神社から境内雑木林へ

小坂神社は、奈良春日社の分社として建立され、大災を被った後、前田利常の代に再建されました。神社参道沿いにはタブノキ、モミジ、スギ、モミ、コナラなどの大木が枝を広げ、青い空にそのシルエットを浮きたたせています。拝殿右横から境内雑木林に入ります。若葉の香りが心地よく、静寂の中、シジュウカラが樹皮をついばみながらエサを求めて渡ってきます。



(全性寺付近)

犀川・寺町台コース

男川・犀川「その美しき清流と緑のやすらぎ空間」

犀川。清き水の流れと緑地を駆け抜けるやさしい川風、そして遠くには医王山。水鳥や野鳥が日々遊ぶ姿も心落ち着く光景です。初夏にはアユが解禁となり、多くの太公望が兩岸より竿をさす姿もみられます。

平和町公園 → 平和神社 → 御参詣坂 → 犀川緑地公園 →
法島児童公園 → いしかわ子ども交流センター →
法島不動尊 → 八幡神社



●平和町かいわい

平和町公園には、ちょっとかわった装置があります。その名も『自然エネルギー照明システム』。太陽光と風力を電気エネルギーに変えて、夜間の公園内照明に利用しているのです。環境にやさしい公園です。その公園から団地内の歩道に沿って進むと、平和神社に辿り着きます。秋になると、境内のイチヨウの黄色とお社横にある赤い鳥居とのコントラストが見事です。

●御参詣坂

住宅団地の裏通りを進むと、法島町へ下る坂道があらわれます。藩政時代、野田山墓地へ参詣する時に利用したことから名がついたといわれる御参詣坂です。坂の途中からは、犀川、小立野台地のまちなみが垣間みえます。

●犀川緑地公園

憩いの水辺空間として親しまれている犀川緑地公園。サクラ、アジサイ、ツツジなど季節ごとにさまざまな花が咲き、池には水鳥たちの集う姿がみられます。川風に誘われて緑地に歩を進めると、犀川の流れが身近にせまり、堰からこぼれ出る水音が爽快感をあたえてくれます。さらに上流に目を向けると、遠くに医王山。山河の調和、まさに金沢らしい景観といえるでしょう。

●鳴く虫たちのコンサート

一年中子どもたちの歓声でにぎやかなしかわ子ども交流センター。周辺では、夏から秋にかけての夜には、コオロギやアオマツムシ、カネタタキなどの鳴く虫たちの涼やかな音色が楽しめます。交流センター後方、竹林の斜面まで足を伸ばせば、クツワムシの大合唱も聞かれます。

●法島不動尊のわき水

十一屋小学校へ上がる石段横に不動尊があります。崖一面からのわき水を集めてほこらの手水鉢に入れていて、眼病に効くといわれています。

●八幡神社のケヤキ

石段を登りきったところが、八幡神社。境内には樹齢400～500年のケヤキが天空を仰ぎ、トチノキなどとともに、寺町台を象徴する緑として親しまれています。

犀川・桜橋コース

いしづみ

黒褐色の坂道に漂う「まちの歴史と碑にみる人の詩情」

野町・寺町の歴史ある寺院、芭蕉や犀星の詩情あふれる碑の数々。犀川沿いや寺町台地のみちすじを巡り、坂道の桜、寺院群の紅葉、残雪の医王山など、懐かしい自然情景に出会ってみませんか。

犀川大橋 → 蛤坂 → 本長寺 → 金剛寺 → 六斗の広見 →
興徳寺 → 寺町鐘声園 → 長久寺 → 新桜坂緑地 → W坂 →
桜橋 → 犀星文学碑・犀星のみち





(犀川)

●犀川大橋

美しき川は流れたり・・・大橋で佇んでいると新鮮な川風が頬を伝っていきます。幾たび訪れても心地よい景観。清流にアユやウグイが泳ぎ、中洲の葉陰にコサギやオオヨシキリが羽ばたきます。かつて、文豪室生犀星もこの情景をこよなく愛したことでしょう。

●旧街道沿いを歩く

旧鶴来往還の起点・蛤坂は、大橋詰左から寺町台へ向かう緩やかな道です。しばらく進むと、木造三階建の建物がみえてきます。市の保存建造物に指定されている山錦楼です。妙慶寺、成学寺など、この界隈からあちらこちらにお寺が建ち並び、寺町台は、平成24年に重伝建地区に選定されました。

●本長寺の大樹林

本長寺の境内には、大樹林があり、妙立寺へと続きます。願念寺の芭蕉句碑「塚も動け我が泣く声は秋の風」が、素晴らしさにいっそうの彩りを添えます。境内にはアオゲラやトラツグミ、オオルリなど野鳥たちがやってきて、心地よい音色を奏でてくれます。

●六斗の広見から寺町かいわいへ

通りのつきあたりは、今までにない広い空間となっています。六斗の広見です。近くには市内最大級のゴヨウマツ（泉野菅原神社敷地内）や国泰寺には風格あるイチョウの古木、金剛寺にはタブノキ、スギなどの樹林のほか、まちなかでは少なくなった竹林があります。鬱蒼とした深緑うっそうに寺町の往時が偲ばれます。

ツガの大木がある興徳寺を過ぎ、大通りに出て右に進みます。春には、国指定天然記念物のサクラがある松月寺まで足を伸ばしてみてもよいでしょう。

●残したい日本の音風景

国の「残したい日本の音風景100選」で、金沢市から「本多の森の蝉時雨」「寺町寺院群の鐘」の2つが認定されています。その認定を記念して整備されたのが寺町鐘園。山門、土塀があり、寺町界隈の寺院庭園を参考にした回遊式の枯山水庭園となっています。5月中頃からは、園内のツツジが見頃をむかえます。

●妙法寺のドウダンツツジ

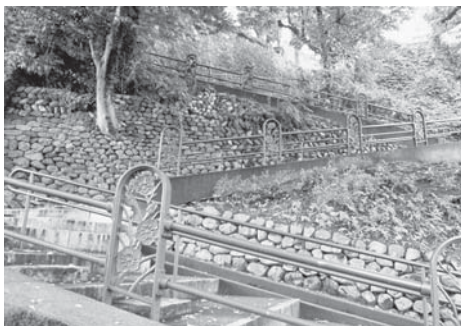
妙法寺のドウダンツツジは他に類を見ない大きさが特徴で、その大きさは樹高約4m、葉張は約7m、根元周は約1.6mあり、日本一となっています。花は可憐で美しく、4月下旬から5月上旬に白色で釣鐘のような5mm程の花を枝先に散形状につけます。また、紅葉も見事で、11月中旬が見頃です。

●長久寺のギンモクセイ

寺町通りを渡り長久寺へ。山門をくぐると樹齢400年のギンモクセイが本堂正面に対で座し、秋には白い花が芳しい香りを漂わせます。芭蕉が詠んだ「秋涼し手毎にむげや瓜茄子」の句碑も櫓塀に映えます。

●新桜坂緑地とW坂

長久寺のケヤキや本因寺のスギ木立ちを横にみながら進むと、新桜坂緑地、そしてW坂（石伐坂）。緑地からは犀川大橋を中心とした市街地が広く見渡せ、W坂を下りながら崖地に生えるサクラと石垣の隙間から見渡すと、犀川や対岸のまちなみが立体的に俯瞰できます。井上靖の文学碑を通り過ぎると、W坂下の桜坂には、本多の森も一望できる階段道もあります。



W坂(石伐坂)

●桜橋と犀星のみち

桜橋から望む山河は素晴らしく、医王山・大門・高三郎の山々が遠く浮かび、足元の見晴台に迫る清流と涼風に目も醒めるようです。橋を渡ると、河岸の小公園には高浜虚子や室生犀星の碑が並びます。犀星のみちを大橋の方へ進むと、堰の轟音、そよ風に揺らぐサクラの木々、犀川の悠久の歴史と、かけがえのない自然の深みが伝わってきます。

野田山・長坂コース

南丘陵・野田山「古刹の深緑と新しい花緑の誕生」 こさつ

標高175.4mの野田山丘陵に広がる野田山墓地。加賀藩前田家歴代の墓所をはじめ、室生犀星の墓などが点在し、今は市民墓地として、安らぎの空間を形成しています。閑静な大乘寺の境内では、木霊こだまの気配が感じられます。

野田町 → 長坂用水 → 大乘寺 → 大乘寺丘陵公園 →

野田山墓地 → 野田山山頂部 → 前田家墓所 → 野田口



●長坂用水

野田町交差点より野田山方向へ進みます。しばらくすると道と水の流れが交差します。これが長坂用水で、内川の竹林を縫うように緩やかに流れ来て、野田、長坂、泉野などに、里山からの清々しい水を提供しています。用水に沿って進んでいくと「大乘禅寺」と力強く刻まれた立派な門柱がみえてきます。

●大乘寺

禅宗の名刹「大乘寺」。モミ、スギ、アカマツ、サザンカなど、高低木約12,000本からなる大樹林に覆われ、山門、仏殿、法堂など、静けさの中に歴史を刻み続けている主要建物が威容を誇っています。参道左右に^{きつりつ}屹立するモミ、スギの雄姿や墓地周辺のアカマツの林。緑に苔むした境内では、野鳥のさえずりがあちらこちらから響いてきます。



(大乘寺)

大乘寺は、森閑とした古刹の風格と、年輪を重ねた自然のたくましさを、今に伝えています。

●大乘寺丘陵公園

長年、市民に親まれてきた長坂町、山科町の丘陵地の緑を復元し、永く未来に継承するため整備された金沢市を代表する総合公園です。標高差83mの丘陵地に広がり、園内からは金沢市街地と日本海までのパノラマを一望することができます。標



(大乘寺丘陵公園)

高の違いによる眺望の変化も見どころのひとつです。園内には、一年を通じて散策を楽しめるよう、サクラ、ウメ、ツツジ、アジサイ、モミジ、ハギ、ツバキなど四季折々の花木が植えられています。特に、約13,000株あるつつじ園

は、満開の時期を迎えると壮観です。また、約900mにおよぶ桜並木の主園路がふもとから頂上へと続き、春には公園を彩ります。公園中腹の丘陵斜面には約13,000㎡の広さを誇る開放的な芝生の丘があります。ゆるやかな丘にゆったりと腰をおろして、園内の四季折々の景観に包まれながら、花木を楽しみ、季節の移ろいを感じることができます。

●野田山墓地

市街地から南西部に位置する野田山。広大な墓地公園として、前田家墓所をはじめ金沢にゆかりある著名人や市民の墓が数多く点在しています。一帯はおもに、アカマツ林で墓地全体を覆っています。園内は、そのアカマツの樹陰が日差しを弱めるためか、湿り気を好む下草が多くみられます。



(前田家墓所)

お盆や彼岸の頃を除けば、訪れる人も少なく普段は静まりかえっています。

三小牛町に続く勾配ある車道沿いを進み、平坦となった頂上部あたりから左に折れ、墓地敷地内の舗装された参道を下ります。しばらく下ると、前田家墓所に続く参道に辿り着きます。

野田山が前田家の墓園となったのは、初代藩主・前田利家の兄利久をここに葬ったのが墓地の始まりといわれています。利家もこの地に眠っていて、墓所前に立ち、麓を望めば寺町台のまちなみが、さらに遥かに望めば、小立野台地が回廊のように、まちなみに緑の帯を巻いています。

●野田口へ

なだらかな参道に沿って下ると、墓地管理事務所前に出ます。網目状に幾重にも延びる参道では、シダ類がよくみられ、墓石には、種々のコケ類も観察できます。管理事務所前を右に進み、覚尊院の六地藏に出会い、そして再び長坂用水の水音が聞こえてきたら、そこが野田口。

通りへと続く道の両側には、切り花や線香を置く家々も多く、ほかとは趣を異にした山麓の風情が感じられます。利家墓守の寺として建立された桃雲寺があるのもこの界限です。

伏見川・満願寺山コース

太古の浪漫に感嘆「山科のおう穴群と大桑層貝化石」

伏見川は、富樫山地の最高峰、倉ヶ岳（標高565.4m）を原流域とし、南部の丘陵地を深く切り込んで市街地に達します。竹林に覆われた川岸の中腹には2～3百年前の貝化石が点在し、時の深さを感じさせます。

山科神社 → おう穴群・大桑層貝化石 → 芋掘り藤五郎神社 →
九万坊大権現 → 斎地神社



●山科神社の樹林

富樫小学校前交差点から東方向に進みます。緩やかな上りが続き、しばらくして右手にひとときわ高い山科神社の樹林がみえてきます。ケヤキやイチヨウ、スギなどの高木やツバキ、サカキなど中木が主で、特に参道右のケヤキは、高さ25m、幹周り4.5mもある巨木です。

●山科町かいわい

嶽の橋で佇めば、伏見川の心地よい水音が、上流へと誘います。山科町の静かな住宅地や、^{のどか}長閑な田園の中を進んでいくと、突然、^{うっそう}鬱蒼とした竹林があらわれます。仙人橋に辿り着きました。

●天然記念物

仙人橋付近の川の両岸に大小さまざまな丸い穴がみえます。小石が水の勢いにより回転し、つぼ状の丸く深い穴となったものです。これを「おう穴」といいます。おう穴群がある仙人橋付近では、川岸の中腹に白い帯のようなものがみられます。これが貝化石による大桑層で、今から2～3百万年前の日本海の状況を知るうえでとても貴重なものです。層の厚さは約100m。貝化石は、層の下部から産出し、巻貝、平貝など約200種近くも確認されています。これが「大桑層の貝化石」で、「おう穴」とともに国の天然記念物に指定されています。

●芋掘り藤五郎神社

伏見川を左にみながら橋を渡り、急勾配の道を上ったところに、金沢の地名発祥伝説で知られる芋掘藤五郎ゆかりの「芋掘り藤五郎神社」が建っています。境内には伝承で、藤五郎が松の枝に^{おんまそう}鍬をかけて一服したとされる「鍬かけの松」がありました。神社前からの^{ふかん}俯瞰景観もよく、山科神社の社叢林が眺められます。

●丘陵地をめぐる

満願寺山へ向かって歩を進めます。窪1丁目地内、高台の外周道路を上ると住宅地の合間から市街地南部のまちなみが見え隠れします。満願寺山（標高176.6m）へは、九万坊大権現から長い石段の登りとなります。この丘陵地一帯は、モウソウチク林が広がり独特の景観をみせています。

●金沢平野が一望

満願寺山の山裾に位置する齋地神社。ヤブツバキやタブノキが多く生育しています。社殿前庭が市街地に向けて広がっていて、この高台からは金沢平野、遠くは日本海までが展望できます。

あとがき

この「かなざわ自然環境見聞録」は、平成16年3月に基本となる探訪10コースの中から3コースを選定して「地域の自然探訪ウォーク」を開催し、参加していただいた市民のみなさんからの意見や、魅力ある新たな自然環境への提言等を参考にコースを策定しました。

翌年には「かなざわ自然環境見聞録Ⅱ」を発行し、新たに10コースを加え、あわせて探訪20コースを策定しました。作成にあたってご協力いただきました市民のみなさんに感謝いたします。

今回の改訂にあたり、丘陵地を整備した緑化活動や自然景観を保全しながら人にやさしい歩く道として整備したり、自然と人がうまく共生していくことの大切さを感じました。コースの様子も徐々に変化していきます。銘木、巨木もいずれ朽ちていきます。わたしたちは、自然環境を維持するため、新たな芽を育て手をかけながら自然を守り育てていくことを意識することも必要です。この先、このガイドブックを手に探訪された方が肩を落とすことのないようにみなさんが見守ってください。

また、金沢のまちにはまだまだ癒しの場所があります。基本のコースを参考にあなたのオリジナルの探訪コースを発見してみてください。

なお、お気づきの点がありましたら、お知らせいただければ幸いです。

平成16年3月初版

平成18年3月二版

平成20年4月三版

平成26年3月四版

平成29年3月五版

